

2010年チリ地震に伴う津波襲来時における住民行動の検討（予報）

On the evacuation Public attitudes to the 2010 Chili Tsunami attack, overviewed from questionnaires analysis.

伊藤 英之^{1*}, 宇佐美 誠史¹, 吉川肇子²

Hideyuki Itoh^{1*}, Seiji Usami¹, Toshiko Kikkawa²

¹岩手県立大学総合政策学部, ²岩手県立大学総合政策学部, ³慶應義塾大学商学部

¹Iwate Prefectural Univ, ²Iwate Prefectural Univ, ³Keio Univ

2010年2月27日現地時間未明にチリ中部沖で発生したM8.8の地震に伴い発生した津波は、翌28日午後に日本の太平洋沿岸に到達し、漁業関係者を中心に甚大な被害を与えた。

津波発生を受け、気象庁は28日09:35に青森県から岩手県、宮城県の太平洋沿岸地域に「大津波警報」を、また北海道太平洋沿岸東部から関東、東海、沖縄地方に至る太平洋沿岸の広範囲に「津波警報」を発表し、警戒を呼びかけた。その結果、490,000以上の住民に避難指示が、また130,000人以上に避難勧告が発令された（内閣府記者発表資料）。

実際の津波は気象庁の予想より1時間ほど遅れて到達し、観測された最大波高は岩手県久慈港で1.2mであった。

我々は岩手県釜石市、青森県八戸市の協力を受け、避難指示対象地区住民にアンケート調査を実施している。

本講演では、アンケート調査から得られた避難の実態や、市民の避難に関する意識傾向等について発表を行う予定である。

キーワード: 2010年チリ沖地震津波, 避難行動, アンケート, 防災意識

Keywords: 2010 Chili Tsunami, evacuation behavior, questionnaire survey, attitude-behavior of inhabitants